八重山神社　雲南市掛合町入間にある八重山神社は、切り立った岩壁のくぼみに本殿が建立され、牛馬繁栄の神様として、崇敬されています。

撮影　木次支部　藤原靜雄 保護司

第 23 号
令和４年２月１日発行
雲南地区保護司会
(事務局:雲南市木次町木次1012番地1)
〈TEL･FAX(0854)42-3550〉
題字揮毫：陶山頼子 保護司
印刷：出雲総合印刷企画社

それぞれの立場において、まずは出来ることから

松江保護観察所長　**西江 尚人**

平素は、特に昨今は新型コロナウイルスの影響で、通常とは違う生活を強いられている中、保護司を始め、地域の皆様方におかれましては、犯罪や非行のない安全・安心な地域づくりのために、御理解・御協力賜り誠にありがとうございます。

そのコロナ禍ではありますところ、前任庁である那覇にて勤務していた三月、ほっこりする新聞記事を目にしました。それは、「善意の作業着でエール～心遣い、再起の力に～」というタイトル。概要は、島根県内の高校生が、卒業して不要となった作業着をメンテナンスした上で、刑務所等から出所して立ち直りに取り組む「更生保護施設しらふじ」の利用者あてに、寄贈を続けているという内容でした。利用者の一人は、「若者に背中を押され、しっかりしなければと思う」と語り、また、高校生の一人からは、「活動をするまで、しらふじの存在は知らなかった。お役に立てるのならうれしい」と語られていました。

犯罪や非行は身近な地域社会で発生し、その当事者である犯罪や非行をした人たちは、いずれ地域社会に戻ってきます。毎年七月を強調月間として通年にわたって広報活動を展開している「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と、あやまちを犯した人の立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。先に紹介した高校生のように、それぞれの立場において意識し行動していくことで、犯罪被害者等の心情を理解させつつ、立ち直りに取り組む人たちを再び地域に受け入れ、地域の中で適切な「仕事」や「居場所」を確保することなどにより、責任ある社会の一員となるよう支える礎となっていきます。

再犯防止における更生保護、とりわけ保護司や更生保護女性会員・協力雇用主・保護観察協会等地域代表の方々の活動を御理解いただき、引き続き皆様のお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和三年度の主な活動

対象者を雇用して・・・

～雲南地区協力雇用主会会員　A社長様　講話より～

去る九月十五日「第二期雲南地区保護司研修会」及び九月二十四日開催の「雲南地区協力雇用主会総会」において、雲南市内で会社を経営されているA社長様に「対象者を雇用して」をテーマに、貴重な体験談を語っていただきました。

～講話内容抜粋～

令和元年より協力雇用主となり、現在二名を受け入れている。

対象者を雇用するにあたっては、いろいろな不安があった。「引き受けても大丈夫なのか？」「仕事が本当にできるのか？」「信用は保たれるのか？」「他の社員とのコミュニケーションはとれるのか？」「いじめはないか？」など。

しかし、社員と家族は社員の一員としてスムーズに受け入れてくれた。そして、自分自身、受け入れるにあたって次のような決意をし、実践してきた。

一、保護観察中は飲酒を絶対にさせない。

二、毎日声掛けをして、ちょっとした仕草も見逃さない。

協力雇用主会

そのような日々のなか、対象者から転職の相談を受けた。それは本人の仕事に対する迷いであった。私は「決めたことはやろう！」と励まし、考え直させたが、私はこれまで、対象者を「預かっている」という気持ちで接していたのではないか！他の社員に対しては「育てる」という意識で接しているのに……。自分自身の接し方の違いに気づく出来事であった。

ある日の会話の中で対象者に「幸せとは？」と聞いてみた。その時、返ってきたことは、顧客からの「ありがとう」の言葉にうれしさや人の役に立つ喜びを感じたということだった。幸せがものやお金ではないことに気づいてくれたようだった。

当社の社員は、それぞれ能力差、人間力、人格、考え方など違いがある。当然行き違いからトラブルも生じてくる。叱られたり、励まされたりするなかで「みんなちがって、みんないい!!」と互いに認め合い、厳しい中にも和気藹々とできる会社を目指したいと考えている。現在、対象者は立ち直ろうとしている。今後も安定した生活ができるよう支えていきたい。

A社長は、会社経営の理念の一つ「社員とその家族の幸せ」を大事にしておられます。対象者とともに更生への道を歩もうとする覚悟を強く感じるお話でした。「いつか一緒に笑ってお酒が飲めるようになりたい」と結ばれた言葉にA社長の人としての温かさ、そして謙虚な生き方に頭が下がる思いでした。

７月14日　社会を明るくする運動
市内のキャンペーンの模様

６月29日
木次小学校訪問

７月１日
メッセージ伝達式

７月14日
社明運動　店頭キャンペーン

「更生保護」ってなんだろう？

犯罪や非行をした人の立ち直りを社会の中で見守り、地域のチカラで支えていく。それが「更生保護」です。

社会の中で必要な支援を受けられず、再び犯罪や非行を重ねてしまう人たちがいます。
犯罪や非行からの立ち直りには、彼らを見守り支える地域社会のあたたかい心が必要です。
皆さんの地域でも、様々な立場から立ち直り支援に協力する「更生保護ボランティア」が活動しています。

“社会を明るくする運動”
～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が犯罪や非行の防止と、罪を犯した人の改善更生について理解を深め、犯罪や非行のない地域社会を築くための全国的な運動です。

「あなたも地域の行事に参加してみませんか？」

ホゴちゃんの更生物語

令和３年度「社会を明るくする運動作文コンテスト」

雲南地区入選作品

小学校　76作品　　中学校　17作品

中学校					小学校				
学校名	氏名		学年	題名	学校名	氏名		学年	題名
海潮中	岩田	実井	3	その優しさが	西小	内田	花音	6	今、一番大事なこと
掛合中	松村	大輝	3	私の将来の夢	鍋山小	佐藤	真幸	5	インターネットと「言葉」
掛合中	白築	詩花	3	相手との関わり方	鍋山小	伊東	奈津	6	限られない幸せを
仁多中	川角	梨緒	2	一言の積み重ね	布勢小	伊藤	謙伸	6	ひいおばあちゃんの理由
頓原中	渡辺	夏未	3	犯罪者に寄りそう	布勢小	小倉	悠	6	思いやりの気持ち

島根県更生保護女性連盟会長賞

犯罪者に寄りそう

飯南町立頓原中学校　三年　渡辺夏未

一言に犯罪といっても、犯罪にはたくさんの種類がある。殺人、強盗、万引き、麻薬や覚醒剤の所持など、挙げ出すときりがない。つまり、それだけ多くの犯罪者が罪を犯してきたということだ。

犯罪者一人で完結しない犯罪には、必ず被害者が存在する。被害者やその家族の気持ちははかり知れない。昨日まで、一時間前まで、一分前まで元気に笑っていたのに……そんなつい先程の記憶の中でその人は生きていても、もう今は居ない。体はあっても息はない。人と通う心もない。それが「死」ということだと私は思う。考えただけで悲しくなる。しかし人が殺されることさえ珍しくなくなりつつある程犯罪であふれ返っているのが現代だ。

犯罪者の中にも、辛い想いをしている人はいると思う。私が特にそう感じるのは、高齢者の万引き犯だ。

以前、テレビで、万引きをした高齢者がこう言っていた。

「一人が寂しいからやった。」

私はこの言葉がずっと頭から離れなかった。胸がぎゅっと締めつけられたような気がした。ああ、こんな理由もあるんだな。寂しかったんだろうな。そう思った。

このように、一人でむかえる「死」が怖くて、罪を犯す人も居る。犯罪者を他の人と同じように見ろと言われて同じようにみることはできないけど、犯罪者の気持ちを知ることは、犯罪の防止につながるかも知れないとも思った。

頓原の大しめ縄づくり

犯罪にいろんな種類があるように、犯罪者にも一人一人の想いがある。だからと言って罪を犯すことは有り得ない行為である。してはいけないことである。しかし拒絶や批判ばかりをしていて良いことが起きるのか、それで被害者や被害者の家族は満足するのか。そんなことはないだろう。きっと、犯罪者の一日も早い更生を願っているはずだ。ならば、私たち世間がやるべきこととは、あるべき姿とは何なのか。

私は見て見ぬふりをしないことが、大切だと考えた。誰かが一人になっていたら声をかけたり、そっと近くに居ることで、犯人に犯行をさせなくさせたり、犯罪者を生み出さなくさせたりできると思ったからだ。

誰かが困っていたら、声をかけてみる。そうすることで、未来に起こる犯罪は少なくなると私は思う。声をかけるということは難しいことだ。私も友達にかける言葉に迷ってしまうことがあるから、本当に簡単なことではないと思う。でも、一瞬勇気を出すことで未来が変わるのなら、やる意味は十分にあると思う。良い方に未来が変わるとは限らなくても、誰かの心は少しでも変わり始めるのではないかと感じる。だから、これからは困っている人に限らずたくさんの人に声をかけて、犯罪のない、明るい笑顔の輪を広げていきたい。心からそう思った。

島根県ＢＢＳ連盟会長賞

一言の積み重ね

奥出雲町立仁多中学校　二年　川角（かわすみ）梨緒（りお）

学校から帰ると、すぐ夕飯。家族が作ってくれたご飯を淡々と食べる私。いつしかそれが私の当たり前になっていました。

ご飯を食べるとき、私はいつも「おいしい。」と言いませんでした。口に合わないというわけではなく、「おいしい。」と言わなくても良いと思っていたからです。父が「どう？おいしい？」と聞いても「うん、いいんじゃない。」といつも淡々と返していました。

そんなある日、父と母から「いつもより遅く帰るからご飯を作ってほしい。」という連絡が来ました。料理をするのが苦手だった私は、父と母が帰ってきても、ご飯を作り終えることができませんでした。やっと完成し、家族の皆に食べてもらうとき、ご飯の味が不安だったということと、何時間か待たせてしまったという申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、家族の皆は、私に「おいしい。よく作ったね。」と笑顔で言ってくれました。私の心は温かい気持ちでいっぱいになり、自然と笑顔になっていました。こんなに嬉しくて温かい気持ちにさせてくれる「おいしい。」という一言は、不安でいっぱいだった私を救ってくれました。また、短い言葉でも人を笑顔にすることができるということを教えてくれる一言でした。

次の日の夕方。私は家族が作ってくれた夕食を食べ、「おいしい。」と言いました。すると、「良かった。おいしいと言ってもらえて。」と家族が笑ってくれました。

私は、自分が「おいしい。」と言われてうれ

永井隆記念館の「平和の鐘」

しかったので、家族が夕食を作ってくれたときに、「おいしい。」「ありがとう。」と言っていました。でも、日が経つにつれて「おいしい。」と言う言葉を出さず、淡々と夕食を食べるようになっていました。

最近、父の体調が良くないときがありました。私はハッとしました。家で私にはお風呂掃除という仕事がありますが、家に帰るのが遅くなった日や、部活動から帰ってすぐに寝てしまった日に私の代わりにいつも父がやってくれたことを思い出したからです。また、父は仕事から帰ると、私たち家族のために夕食を作ってくれます。夕食を食べながら、父が疲れていて大丈夫かなと心配になっていましたが、私は思うだけで言葉にして伝えることはしませんでした。父が体調を崩したと知って、父に無理をさせてしまっていたのだなと思いました。もし、父に「大丈夫？」と声をかけていたら、父にそこまで無理をさせず、もっと父を助けることができたと思います。思っていても伝えなければ気持ちは伝わらないと思ったので、私は夕食を作ってくれる父への感謝の気持ちを表そうと思いました。私は料理ができないから、代わりに作ることはできないけれど、「おいしい。」と気持ちを言葉にして伝えることはできます。そこで、父が夕食を作ってくれた日には、「おいしい。」と言うようになりました。「おいしい。」と伝えるようになると、会話も増え、今は家族皆の笑顔が食卓に広がっています。

木次線を走る C56107

坂根駅のスイッチバック

私は、みなさんに言葉は人を笑顔にすることができるということを改めて感じてほしいです。今は、インターネットを通じて世界中の人とかかわることができるようになりました。インターネット上では、温かいコメントをする人がたくさんいますが、中には人を悲しませたり、傷つけたりするコメントを書く人も少なくありません。

ネットニュースなどで芸能人が誹謗中傷を受けているというニュースを今でも見ます。最近では、アスリートの方が誹謗中傷を受けるということがありました。東京オリンピック男子水泳に出場した瀬戸大也選手の、余力を残した戦略が裏目に出てしまって、決勝進出ができなかったと報道されたときに、ネット上で批判の声が上がりました。心配の声も上がりましたが、挑戦したことに対して批判されるのは、私が瀬戸選手の立場だったら、とても嫌な気持ちになります。批判されていい気持ちになる人はいないのではないでしょうか。私は、このような話を聞くたびにとても心が苦しくなります。誹謗中傷によってなくなった方もおられるそうです。人の命を奪うことは絶対にあってはならないことです。

木次線坂根駅

これ以上言葉で悲しい思いをする人が出ないように、私たちは今までもらった温かい言葉を、今度は違う誰かに伝え、笑顔にし合っていくことが大切だと思います。

言葉は、人を傷つける凶器になるときがあります。しかし、ある一言で誰かを救ったり幸せにしたりすることもできます。道で会った人に挨拶をされると嬉しい気持ちになります。誰かに「ありがとう。」と言われると心が温かくなります。このような温かい一言をいろんな人に伝えていくのです。小さなことかもしれませんが、一つ一つの積み重ねで楽しい毎日を過ごすことができると思います。だから私は、温かい社会を創るために、たくさんの温かい言葉を伝えていきたいです。

「食の杜」メタセコイヤの並木

受賞おめでとうございます

受賞内容	支部	氏　名
法務大臣表彰	吉　田	多賀　　久
全国保護司連盟 理事長表彰	三刀屋	須山　哲好
	横　田	高松　千草
	横　田	安部　陽子
中国地方更生保護委員会 委員長表彰	仁　多	楠　　京子
	木　次	佐藤　幸男
	赤　来	永田　一博
中国地方保護司連盟 会長表彰	加　茂	岡田　礼子
	三刀屋	清水　　寛
	仁　多	立石　典夫
	頓　原	伊藤志津江

退任にあたって

雲南地区保護司会　加本　恂二

平成三年十二月に保護司を拝命、三十年にわたり地域の皆様をはじめ、多くの方々のご支援ご協力をいただき使命を果たすことができました。

「罪を悪（にく）んで人を悪（にく）まず」、私自身も多くのことを学ばせていただきました。

今後とも、人間関係を大切に、安心・安全な住み易い地域でありますよう願い、退任のご挨拶といたします。

令和三年十一月三十日

木次線出雲三成駅（昭和30年頃）

新任保護司紹介

令和３年12月１日付けで新しく保護司に就任しました。よろしくお願いします。

支部	氏名
大東支部	吉田（よしだ）　隆一（りゅういち）

編集後記

通信機器が発達し手紙を書く機会が少なくなりましたが、心に残る封筒があります。

ある方から届く封書はいつも裏返しをして再生された封筒でした。裏側には丁寧に「更生封筒」と手書きされていました。この方は、立ち直りの支援をされている保護司さんだと後に知りました。40年の時を経て、自分が保護司を務めるとは思いもよりませんでした。更生封筒に縁を感じます。今、保護司の数が全国的に減少しています。雲南も例外ではありません。

誰もが共生できる社会づくりに皆様の温かいご支援をよろしくお願いします。

（伊藤）

編集委員長　妹尾　和明
編集委員事務局長　岡田　礼子
編集委員　若月　薫
〃　早水　守
〃　伊藤志津江

令和３年度雲南地区保護司会組織図

（令和３年12月１日現在）

理事
藤原　茂（大東支部）
谷岡美榮子（木次支部）
久我　卓央（加茂支部）
須山　哲好（三刀屋支部）
堀江三智江（吉田支部）
松村　千弘（掛合支部）
森合　俊雄（仁多支部）
安部　茂寿（横田支部）
熊谷　高暢（頓原支部）
高橋　浩文（赤来支部）

企画調整保護司
会長　徳江　良弘
副会長　多賀　久
副会長　藤原　静雄
事務局長　藤原　静雄（兼）
事務局次長　石飛由美子（会計）
事務局次長　陶山　頼子

監事
佐々木睦美
清水　寛

保護司　52名（定数52名）

【雲南市】
（大東支部）
土谷　文江
藤原　茂
野津　位登
佐々木睦美
永戸　尚樹
岸野　俊一
安井　修
川島　一樹
吉田　隆一
（加茂支部）
久我　卓央
岡田　礼子
内田　祐司
渡部香代子
（木次支部）
村上　秀道
谷岡美榮子
驗馬　重弘
坂本　暢子
藤原　静雄
佐藤　幸男
齋藤　静代
妹尾　和明
（三刀屋支部）
須山　哲好
陶山　隆樹
清水　寛
陶山　頼子
鳥屋尾寛子
楠　縁人
（吉田支部）
多賀　久
堀江三智江
（掛合支部）
松村　千弘
石飛由美子
早水　守
杉山千恵美

【奥出雲町】
（仁多支部）
森合　俊雄
千葉　哲之
川本　晃代
楠　京子
立石　典夫
卯木　昌史
長谷川宏基
（横田支部）
徳江　良弘
高松　千草
安部　陽子
若月　薫
安部　茂寿

【飯南町】
（頓原支部）
石川　隆
熊谷　高暢
伊藤志津江
（赤来支部）
高橋　浩文
永田　一博
塚本　良二
安部　治之